

■ VISTA 9 ユーザーレポート

東海テレビ放送株式会社 様

VISTA 9 - 42



BサブをVISTA 9で更新



東海テレビ放送株式会社
技術局 映像制作センター 制作技術部
倉地 洋介

Bサブ

当社にはAとBの2つの制作サブがあります。Aサブには2005年に新社屋での運用を開始したのと同時にVISTA 8を新規導入しましたが、Bサブについては、いわゆるデジアナ卓を移設して運用してきました。新社屋のAサブとBサブは、マシンルームを中心としてほぼ左右対称にデザインされており、音声エリアについてもほぼ同じ環境を実現しています。しかしそれ故に、音声卓そのものの音質、トーンの差というもの顕著にわかってしまうという現実と直面しました。音響調整等いろいろと改善を試みたものの、AサブのVISTA 8との音質の差は埋められるものではなく、その違いをどうしても感じてしまい、意識せざるを



得ない状態だったわけです。

選定のポイント

当社では、11年前に音声継車にD950M2を採用してから、MA室にVISTA 7、AサブにVISTA 8と、スチューダーのデジタル卓が稼動しており、当然Bサブでもその候補にVISTAが挙がりました。今後、十数年使用しなければならぬ音声卓であるため、他社コンソールも比較検討させていただき、操作性/音質/安全性などを総合的に判断し、最終的にVISTAを採用しました。例えば、自分達が既にVISTA 8に馴染んでいるということや、VISTAは触りたいツマミにたどりつくスピードが断トツに速いと思います。生放送運用時における「手の速さ」は、とても重要なポイントです。この「操作性の良さ」だけでも十分に選定理由になるわけですが、それに加えて当社の場合は、入出力基板等の予備部品を共用できるというメリットもありましたし、やはり魅力的だったのは、Aサブと同じであるその優れた音質でした。VISTA 8はVISTA 9に進化していましたが、音質面は心配していませんでしたし、実際そのとおりだったと思います。VISTA 9はメーターブリッジの高さがやや不安要素としてあったのですが、日東紡音響エンジニアリングさんにご協力いただき、モニター棚やディスプレイの高さ

をデスクに合わせて微調整し、再度音響調整を行っていただいた結果、Bサブのモニター環境は大きく改善されました。

新しい機能

今回のBサブ更新では、送り返しマトリクスをBSS LONDONを使って構築しました。ソフトウェアでマトリクス画面をデザインし、操作はタッチパネルで行う方法です。Aサブではハードウェアによる送り返しマトリクスを使用しており、Bサブでも同様の機能が欲しいと思っていたところ、このようなソフトウェアによる方法を知り、導入しました。今のところまったく問題なく快適に使えています。コストも大幅に節約でき、卓まわりも非常にすっきりさせることができました。

4台目のSTUDER

結果的に4台目のスチューダー音声卓を導入することになりましたが、我々としては、いろいろと悩んだ末の判断であり、この選択が間違っていないかと実感しております。スチューダーさんには、これからも今まで通りの手厚いサポートをお願いしたいと思います。